

巣立つ鳳たちへー学部長と大学院研究科長からのメッセージー

自分を見失わず、自分を信じて

経済学部長 酒井 進

毎年この時期になると、多くの卒業生のことがきまって思い出されます。バブル期に証券会社に就職したA君、教員志望のB君、アメリカに留学したC君たちは、その後どうしているだろうか。これから10年後、今年卒業する君たちのこともきっと思い起こすでしょう。

日本の経済・社会が大きな曲がり角にあるなか、君たちの歩む道がいつまでも平坦でありつづけるとは限りません。しかしどんな状況にあっても自分を見失わずに、職場や家庭で君たちの持ち味を出すように努めてください。自分を信じて、仕事のなかで君たちの個性を活かすように心がけてください。そうする方が、人との競争に明け暮れるより、よほど充実した毎日が送れるはずですよ。どうか頑張ってください。

母校は「母港」

法学部長 木幡 文徳

卒業生の皆さんは、専修大学で得た知識、そして体験を携えて、今後社会生活を送ることとなり、いわば、専修大学という母港から、世界へ航海することになるのです。これからは、この卒業を機に、専修大学という母校と別れを告げるというのではなく、何かにつけて母校を思い、実際に母校と交流を保ち、時には母校に戻り再びそこから学び、時には母校の有する精神的・物質的財産を利用し、時には、母校に力を与えるという相互の関係を築いていってほしいと思います。そこで、決してダジャレではなく、『母校』は『母港』と訴えておきたいのです。私たちが、皆さんの期待に応えられる母校・母港であるよう努力したいと思います。

混沌とした時代こそ自分を活かすチャンス

経営学部長 魚田 勝臣

卒業おめでとう。長かったようで短い大学生活だったことでしょう。ご父母や関係者の皆様の喜びもひとしおとお慶び申し上げます。

論語に「これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」とあります。「楽しんで行こう人には勝てない」という意味です。

混沌とした時代にあつて困難に立ち向かうことが多いと思いますが「こんな時代だからこそ自分が活かせる、チャンスだ！」と考えて自らの仕事を楽しんでみてください。世のため人のため大自然のために働くのが人生目標と考え、辛抱強く明るく前向きに生きて行っては如何でしょう？

専修大学で学び「オール専修」の一員となったことを自覚し、自信と誇りを持って世界で活躍して下さい。それぞれの道で精進されるよう期待しております。

21世紀への果敢な挑戦者であれ

商学部長 大西 勝明

諸君の学生生活は、充実したものであり、入学時に描いた夢は実現しましたか。学生生活を満喫した人も、不完全燃焼という人もいることでしょう。いずれの人も、また、専修大学で培った知性や人格で創られた高度なスタート台に立とうとしています。ただ、世界は激動しており、深刻な競争があり、これからの航路は、一層厳しい。明確な目的のリセットと強い意志と多大なエネルギーが必要であり、他方で、諸君のこうした挑戦が待望されています。

力まなくても良い。しかし、諸君が、自分らしく生き、自己実現し、諸君の未来を豊かにするには、国際的な視野を持って、なおも自分自身をブラッシュアップしていくたゆまぬ努力が不可欠です。これからこそ、自分自身と21世紀への果敢な挑戦者であってほしい。

「学んだこと」と「学ぶこと」

文学部長 荒木 敏夫

大学生活を終え、社会に巣立つ時、大学・ゼミナール・サークルで得たものは何であったかを一度考えてみて下さい。人生の大きな岐路に立った時、過去への謙虚な省察は、明日の指針と勇気を与えてくれるはずです。また、皆さんが、これから体験する社会人としての生活は、これまでの学生生活では学べなかったことを学べるはずです。これまで学んだこととこれから学ぶことが接点をもった時、専修大学の卒業生としての自覚が真に根付く契機が生まれます。皆さんが、社会人として活躍・成長する中で、こうした時間を多くの卒業生がもってもらえることを期待しております。

卒業後も母校との結びつきを

ネットワーク情報学部長 坂本 實

諸君が、ネットワーク情報学部に第一期生として入学後、はや、4年が経過しました。多くのレポート課題、厳しい出席、プロジェクトの完成を目指した友人との協力の日々など、大学での生活は懐かしい思い出になることでしょう。

先端領域での勉学の成果、新たに築かれた深い交友関係は、これからの諸君にとって、貴重な財産になるはずです。

これからの社会では、個性的で多様な価値観が一層大切になります。

大学で学んだことを基礎に、ますます発展、進歩する知識と技能を身につけると同時に、他の人の生き方を尊重し、自分の生き方を大切にしよう、広い領域に関心をもち、心身ともに豊かに生きられることを期待します。

そのために、卒業後も母校専修大学の校友としての結びつきを大切にし、役立ててください。

問題発見・分析能力を活かして

経済学研究科長 町田 俊彦

経済学研究科の修士および博士の学位を授与される大学院生の皆様、おめでとうございます。修士課程の修了生の大半は、仕事または就職活動と研究を両立させた大学院生で、皆様の学位授与に至る努力には頭が下がります。外国人留学生も故国を

離れ、物価高の日

本で、よく初志を貫徹されました。博士後期課程の修了生は、課程博士論文合格という高いハードルをよく越えられました。激しく構造転換をとげつつある日本の経済社会では、大学院で培う問題発見、分析などの能力が強く求められています。会社等に勤務する修了生は、そうした能力をぜひ職場で活かしてください。研究者の途を歩む修了者は、先輩たちが学会で活躍して得た当研究科の評価をさらに高めるよう、研究に励んでください。

人間にとって居心地のよい親密さとは

法学研究科長 古川 純

皆さんの「新しい出発」(commencement)を励ますために、悲観主義の哲学者ショーペンハウエルの記す「山アラシ・ジレンマ」という寓話を紹介したいと思います。「ある冬の日、寒さに凍えた山アラシのカップルがお互いを暖めあっていた。ところが彼らは、自分たちの棘(トゲ)でお互いを刺してしまうことに気がついた。そこで彼らは、離れてみたが、今度は寒くなってしまった。何度もこんな試みを繰り返した後に、ようやく山アラシたちは、お互いにそれほど傷つけあわないですみ、しかもある程度暖めあえるような距離を見つけ出した」。これは、「人間にとって居心地のよい親密さとは何か」を考えさせる寓話ですが、価値観やルール意識が多様化するいまこそ、その意味を深く考えさせられる話ではないでしょうか。

広い視野での研究の深化を

文学研究科長 鈴木 丹士郎

文学研究科は本年度博士の学位を3人の方が、修士の学位は7専攻合わせて47人の方が取得されました。日頃の研鑽が見事に実を結んだわけで誠におめでとうございます。

博士号は研究者として独り立ち出来る証であり、これからも努力を怠ることなく失敗を怖れず、学界に清新の気を吹き込んでください。今や研究の専門化と細分化は止まるところを知らないようです。これは学問の進歩とも考えられますが、一方で危険もはらんでいます。それは全体が見通せなくなるからです。広い視野での研究の深化を心掛けてください。修士号を得られた方々の多くは高度の専門知識を身につけた職業人として実社会の第一線に出られますが、明確な目的意識を持ち、現実を凝視し、難問題に対しても冷静かつ敢然と立ち向かってください。

専門知識とともに人間的な魅力も

経営学研究科長 櫻井 通晴

修士課程は2年間、博士課程は5年間のご努力が実って、このたび、晴れて大学院を修了または学位を取得されたことに、心よりお祝い申し上げます。今後は、勉学の成果を生かして専修大学の大学院の卒業生であることに誇りをもって、各分野において大輪を咲かせてくれることを期待しております。

日本の社会は、これから政治、経済、経営の分野において、透明性を高めていくことがますます必要になってきます。ビジネスの世界に進まれる方は、大学院で学んだことを基礎にして、どうぞ、経営の可視化に努力してすばらしい経営改革を実現させてください。社会では専門的な知識だけでなく、強靱な精神力と意志、人間的な魅力や優しさ・

誠実性が求められます。職場だけでなく人間としても立派な人物と目される人になってください。皆さんの今後のご活躍を心より祈念して、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

人生は一冊の書物である

商学研究科長 松原 成美

孔子は論語の巻頭で「学んで時にこれを習う」と述べて何事にもまず師から教わり、それから自分でやってみることを薦めている。

大学院での研究はまさに師である教授から直接に指導を受け、日夜努力し、学位論文ないしリサーチ・ペーパーを完成させ、ここに晴れの学位を授与された諸君おめでとう。

心からその努力に対して敬意を表したい。

これからは、時として「習ってこれを学ぶ」ことが必要であると思う。卑近な言葉でいえば「我流」の精神である。

人生は一冊の大きな書物である。これからの人生、目標を掲げ「我流」をもって努力し、立派な大きな書物を完成させてください。諸君のますますのご発展とご健勝を祈念します。

各種入試結果

商学部公募制入試〈12月3日発表〉

商業学科には40人(前年34人)の志願者があり32人(同31人)合格。会計学科には41人(同31人)の志願者があり、39人(同29人)合格。

法科大学院入学者選抜試験(第II期)〈2月16日発表〉

未修者(3年制)には46人の出願があり、第1次選抜合格者数は26人。第2次選抜(最終)合格者数は18人。

※補欠者4人を発表。

既修者(2年制)には55人の出願があり、第1次選抜合格者数は30人。第2次選抜(最終)合格者数は23人。

大学院入試結果〈2月26日、3月5日発表〉

修士課程第II期は5研究科合計で176人(前年174人)の志願者があり68人(同73人)が合格。合格者のうち本学出身者は26人(同26人)。

博士後期課程は27人(同31人)の志願者があり、19人(同24人)が合格。このうち本学出身者は12人(同18人)。

学位取得

西條 勉教授が博士(文学)

西條勉文学部教授が2004年(平16)11月16日付で早稲田大学から博士(文学)の学位を授与された。学位論文名は「古事記にみる古代王権の神話と系譜に関する研究」。

早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得。2000年(平12)本学教授。担当は日本文学作家作品研究IIほか。

宇佐美嘉弘助教授が博士(学術)

宇佐美嘉弘経営学部助教授が12月24日付で東京大学から博士(学術)の学位を授与された。学位論文名は「Theory of Least Squares Estimators in Linear Regression with Covariance Structure」(訳・共分散構造を持つ線形回帰の最小2乗推定量の理論)

専修大学経営学部情報管理学科卒業。専修大学大学院経営学研究科修士課程修了。93年(平5)本学講師、98年(平10)助教授。担当は数理統計学ほか。。

【ニュース専修2005年3月号10面】